

窮理  
捷徑  
十二月帖

内田晋齋著

下

特34-446  
\*1200800182015\*

特34

446

館藏書會育教本日大			
二	五		二
册	七	三	二
	號	架	函



始





特34  
446

東洋書院

新刊



窮理  
捷徑

十二月帖下

明治十年圖書局交付

内田音齋著并書

過  
日  
在  
途  
中  
之  
窮  
理  
目  
得  
花  
一  
分  
馬  
車  
之

十二月帖卷下

一。



今も海は子も接持し

上者教は海あり

町に海あり

徳と云ふ点ハヤ

ついで甘きり

水に能く

粗末し

来御



皇一山出泉味  
 本懐く至河幸和  
 薄の候子四七日老幸  
 牛娘め銀河を渡りて  
アマノガハ

おまきふ然ききてい  
 日降る時ハ銀河に  
 水太子漲こぼれ互に  
 去る少以能きん  
三三

下四廿一



丁夜之宵乃古様之表也  
修長多よ是了凡下海只  
ふ思隊之多六川の如  
一子軍ハッ白くあかん

若流之来銀河を何  
物さる也少夜古  
事の如し

七月初六



前文畧見多し西  
心澤山出多し板ハカ  
多河山銀河し説  
初澤し傳ふる水泉たぐ

見<sup>かん</sup>し通<sup>と</sup>り物<sup>もの</sup>端<sup>は</sup>位<sup>い</sup>  
是<sup>こ</sup>らに諸<sup>しよ</sup>銀<sup>ぎん</sup>河<sup>が</sup>を元  
字<sup>あ</sup>に何<sup>なに</sup>物<sup>もの</sup>も七<sup>しち</sup>  
物<sup>もの</sup>は尤<sup>なほ</sup>多<sup>おほ</sup>し



人々あふるる魚の目

子更<sup>せん</sup>り<sup>り</sup>る<sup>る</sup>一<sup>一</sup>白<sup>白</sup>星<sup>星</sup>鏡<sup>鏡</sup>

トホメガ子

とお親ひり糸数るは

衆<sup>せん</sup>星<sup>星</sup>お<sup>あり</sup>る<sup>る</sup>糸<sup>糸</sup>る<sup>る</sup>片<sup>片</sup>る<sup>る</sup>

オホクノホシ

ききより粒まを千

里鏡をほりり糸衆を

お波をいふは星困

より大小あり糸をいふあり



三冬もあまの形をきくは

形をきくは肉眼をきくは

凡そは生福他の星は

数百倍をきくは

一帯たんの白くおろしゆり

以年少き人の心も

以年少き人の心も

以年少き人の心も



了 長 成 程 章 年 歲 第 八

至 初 年 之 先 八 禮

幸 以 報 之 也 此 是

子 承 皮

初 秋 八

秋 迄 皇 加 皇 亦 益

此 爲 福 也 故 折 以 是

明 後 功 人 之 云 五 十



正月廿一日 正月廿一日 卯

正月廿一日 正月廿一日 卯

正月廿一日 正月廿一日 卯

正月廿一日 正月廿一日 卯

先批也

先批也

先批也

先批也



斗星正北の星は

先きの星は

形夜儀の星は

木也

めん

トキアカシ

めん

ミダカキテガミ

八月十五日

明徳天皇十五年

雅高

サカモリ

多岐







太陽たいやうは光ひかりを受けける  
ニチリン 新あらたき輝きらめき 照ある日ひ  
光ひかりの当ある心こころの熱あつい光ひかり  
吾われもあまらざる心こころの交まじりあはる

初はつの季きや一ひと作しやく新あらたき  
形かたち球たまごしやう生なまの團だん圓えん  
此こゝを界か分ぶん此こゝを團だん圓えんは一月ひとつき  
一ひと廻めぐる友ともはくく復かへる友ともの



変り帰るもの故に  
浦より船今<sup>あひ</sup>なるは是  
客多起に客の竹先  
つ歩以舟一月のけり免

三日月の江を月輪日  
光をく更る糸は<sup>あま</sup>殆<sup>うら</sup>外<sup>うら</sup>悉  
より<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>る<sup>い</sup>故<sup>い</sup>に<sup>い</sup>僅<sup>い</sup>く<sup>い</sup>なる<sup>い</sup>状<sup>い</sup>  
能<sup>い</sup>形<sup>い</sup>し<sup>い</sup>る<sup>い</sup>え<sup>い</sup>ま<sup>い</sup>よ<sup>い</sup>李



順<sup>じゆん</sup>之<sup>の</sup>か<sup>か</sup>付<sup>つ</sup>る<sup>る</sup>を<sup>を</sup>七<sup>しち</sup>百<sup>ひやく</sup>六<sup>ろく</sup>の  
<sup>しよ</sup>治<sup>ち</sup>ま<sup>ま</sup>玉<sup>ぎよ</sup>其<sup>その</sup>日<sup>ひ</sup>光<sup>みつ</sup>一<sup>いつ</sup>苗<sup>なほ</sup>  
<sup>しよ</sup>水<sup>みづ</sup>之<sup>の</sup>夜<sup>よ</sup>傍<sup>そば</sup>面<sup>めん</sup>より<sup>あり</sup>  
<sup>かた</sup>カ<sup>タ</sup>ハ<sup>ラ</sup>ラ  
<sup>しよ</sup>之<sup>の</sup>故<sup>ゆゑ</sup>半<sup>はん</sup>に<sup>あ</sup>る<sup>る</sup>か<sup>か</sup>見<sup>み</sup>

之<sup>の</sup>今<sup>いま</sup>半<sup>はん</sup>日<sup>じつ</sup>半<sup>はん</sup>日<sup>じつ</sup>  
<sup>しよ</sup>昔<sup>むかし</sup>より<sup>又</sup>又<sup>また</sup>其<sup>その</sup>道<sup>みち</sup>通<sup>とほ</sup>り<sup>み</sup>  
<sup>しよ</sup>十五<sup>じふご</sup>夜<sup>よ</sup>玉<sup>ぎよ</sup>其<sup>その</sup>日<sup>ひ</sup>今<sup>いま</sup>  
<sup>しよ</sup>西<sup>にし</sup>面<sup>めん</sup>より<sup>か</sup>由<sup>ゆ</sup>急<sup>きゆう</sup>其<sup>その</sup>日<sup>ひ</sup>







八日十日

之乃早秋日数なき

冬と早秋に殊に山や

形をいふ人稀タツヌル

多の海ありあり

獨復園オクニハの松木

松木お返るる銀

杏し実早の五ツ松系



是より地云々一 云々  
 是より物云々一 云々  
 事云々一 云々  
 中云々一 云々

増云々一 云々  
 云々一 云々  
 一云々一 云々  
 物云々一 云々



是乃之底空向念いし玉  
と葉物皆玉の方之底  
と下下答然るまゝ大に  
すこまの底をらにしを回く

地こさこのまの底をらに  
すまの底をらに  
と星 批筆下は



九月十六日

酒肴<sup>しやく</sup>一<sup>いち</sup>條<sup>じょう</sup>面<sup>めん</sup>尚<sup>なほ</sup>未<sup>ま</sup>也<sup>なり</sup>

此<sup>こ</sup>書<sup>しよ</sup>者<sup>しや</sup>之<sup>の</sup>多<sup>た</sup>成<sup>なり</sup>是<sup>こゝ</sup>是<sup>なり</sup>也<sup>なり</sup>

可<sup>か</sup>し<sup>し</sup>之<sup>の</sup>可<sup>か</sup>深<sup>ふか</sup>あり今<sup>いま</sup>日<sup>ひ</sup>

二<sup>に</sup>百<sup>ひゃく</sup>解<sup>かい</sup>本<sup>ほん</sup>即<sup>すなはち</sup>本<sup>ほん</sup>

後<sup>のち</sup>光<sup>の</sup>明<sup>めい</sup>の<sup>の</sup>皇<sup>こう</sup>之<sup>の</sup>治<sup>ち</sup>世<sup>せい</sup>代<sup>だい</sup>

善<sup>ぜん</sup>美<sup>び</sup>利<sup>り</sup>乃<sup>の</sup>就<sup>す</sup>龍<sup>りゆう</sup>動<sup>どう</sup>也<sup>なり</sup>

夜<sup>や</sup>病<sup>びやう</sup>大<sup>だい</sup>之<sup>の</sup>流<sup>りゅう</sup>り<sup>り</sup>收<sup>しゆう</sup>



都心の士民は此れを為し  
命を失ひては老を命を  
以て教へては是れ名を  
たすの理を志すニエト

皆一人にして都に任  
居るは是れ忘病を  
今非ず為る去るを  
命を失ひては老を命を  
以て教へては是れ名を



まふく 林檎の末に下  
し 獲瓜 然けり 片も  
お節 檜多し 松尾  
か 賀之字 夫 法自然の

糖瓜 起 夫より 子  
思ふ事 急 急 急  
少 理り 散 散 散  
水 水 水 水 水



のぼる一傳へしは

お乃人お伝へてお

くは地とよのみお

得ハ元下ク地球の中

ひん 引カを磁石カの

ナカ 根カカありま

も磁て地球とよお

おにしよまのまに引















十日初八

流正管身し越心正  
地衣元下時辰  
みかきくははるをみる至

前後起りいそをい  
けり免くくくし抑地  
衣の松源い志来様  
これ説きしはる何ま



御説ごせつの事ことなるは

此身こみ西洋人の輩たぐひの

是こゝ大地ちの底そこに

の火ひの如ごとく岩い石せき皮かわの

如ごとく樂がくの事ことなるは

此こゝ層そうの事ことなるは

此こゝ地ちの事ことなるは

人ひと畜ちくの事ことなるは















至为致<sub>子</sub>以是<sub>子</sub>月<sub>子</sub>未<sub>子</sub>  
八夜<sub>子</sub>心<sub>子</sub>河<sub>子</sub>可<sub>子</sub>以<sub>子</sub>降<sub>子</sub>  
至<sub>子</sub>生<sub>子</sub>心<sub>子</sub>下<sub>子</sub>不<sub>子</sub>因<sub>子</sub>不<sub>子</sub>着<sub>子</sub>  
至<sub>子</sub>持<sub>子</sub>美<sub>子</sub>一<sub>子</sub>而<sub>子</sub>相<sub>子</sub>如<sub>子</sub>公<sub>子</sub>

い<sub>子</sub>片<sub>子</sub>持<sub>子</sub>心<sub>子</sub>以<sub>子</sub>然<sub>子</sub>心<sub>子</sub>お<sub>子</sub>  
之<sub>子</sub>親<sub>子</sub>心<sub>子</sub>一<sub>子</sub>向<sub>子</sub>生<sub>子</sub>様<sub>子</sub>子<sub>子</sub>  
之<sub>子</sub>至<sub>子</sub>心<sub>子</sub>持<sub>子</sub>心<sub>子</sub>心<sub>子</sub>  
之<sub>子</sub>心<sub>子</sub>持<sub>子</sub>心<sub>子</sub>心<sub>子</sub>  
之<sub>子</sub>心<sub>子</sub>持<sub>子</sub>心<sub>子</sub>心<sub>子</sub>

三十二戸中表一



便ひん以拙書付紙書白  
且謹之

孝女月十一日

孝女書お刃片紙如貴

余向余之の孝女之  
此余家之孝女之  
之在孝女如之  
了回未持公可氣し



降るに甘くしむるに  
 考ちう念ごんはるるを方々下はる  
シン以パイ之を審みしつ事一以て  
 雪を松乃如く之を

降るるを早に  
 大なる候あぢやうは是れ元  
 末迄下田一理合と  
 中の各気は夜分物



福水之生之氣氣  
交并之氣弱よほ之  
結むすん之氣強つよ之  
礼之受之おと之

亦之次第身在中  
亦之氣之降くだ之  
人ひと之氣之決くだ之  
之こ之氣之及およ之



十一月廿五日

月白ツキハク母ハハと水ミヅ多タ下シタ河カハシ

少年シヤウネン似ニ多タ子コのノ口クチはハ月ツキをヲ

正思テイシ少シヤウ法ホウ多タ色シキとトおオるル下シタ一イツ山サン

小コ寛カン人ニン多タ色シキとト月ツキをヲけケるル

明メイ夜ヤもモ多タ色シキとト下シタ一イツ山サン

月ツキとト木キ橋ハシ子コをヲ正テイ思シ

けケるル下シタ一イツ山サン



晶之玉定好(ん)眼目(め)の

不(ふ)下(した)を(を)能(能)沙(さ)

玉(たま)屑(くず)目(め)好(好)体(てい)有(有)志(し)は

そ(そ)美(美)無(無)此(此)物(もの)を(を)た(た)ま(たま)る(る)事(こと)

歌(うた)人(ひと)請(まね)家(か)の(の)末(すえ)礼(れ)が

た(た)ん(たん)な(な)粗(こ)末(すえ)を(を)ま(ま)る(る)事(こと)

理(り)非(ひ)可(か)也(や)い(い)ま(ま)屋(や)を(を)た(た)

物(もの)を(を)ま(ま)る(る)し(し)礼(れ)え(え)に(に)何(なに)



物之成りしは深き田に

縁に中に出たり

以て成りしは深き田に

百拜

十二月廿五日

深き田に

縁に中に出たり

以て成りしは深き田に



のこのつ列 あまのこに 変 た  
 ち あ 日 の 水 津 河 海  
 の水 た 陽 し 熱 の 蒸 の  
ニケリン の 中 の 竹 の 子 の  
の 中 の 竹 の 子 の

ち な たり の 浮 の 遊 の 心 の  
ウキアルクイ の 時 を 空 を 三 を 采 を し の 軽 を 幸 を  
の 空 を 一 を 七 を 変 を し を 二 を 回 を 空 を  
 那 り 重 を なる を 海 を 一 を 空 を



又雨のじよ地よ  
下んよきぬき美余  
中候よき氣の流  
たよあはは之の為

小澤しよきあふなるあ  
よのききあ敷の二種い  
生あふるよえ下一物  
しよ寒氣の軽重











旬之池子

十二月廿七日

明治十年二月十九日再刻 御届  
同 年二月二十日出版

定價五十錢

著者

内田 晋 齋

東京第五大區七小區  
下谷徒士町二丁目四番地  
同第一大區十四小區  
蠣殼町一丁目五番地

出版人

若林喜兵衛

書

西京 大坂

勝邨 治右衛門  
出雲寺 文次郎  
村上 勘兵衛  
柳原 喜兵衛  
大野 木市兵衛  
松村 九兵衛  
田中 太右衛門  
前川 善兵衛  
中川 勘助  
田中 九兵衛  
片野 東四郎  
樋口 小左衛門  
新保 屋太吉  
西澤 喜太郎  
高見 甚左衛門  
吉田 甚兵衛  
吉川 伊兵衛

肆

尾州 越後 信州 薩州 橫濱

東京

書肆

北畠 茂兵衛  
稻田 佐兵衛  
牧野 吉兵衛  
小林 新兵衛  
北澤 伊兵衛  
出雲寺 萬次郎  
太田 金右衛門  
青山 清吉  
山中 市兵衛  
山孝 之助  
同 孝之助  
同 孝之助  
淺倉 久兵衛  
石川 浩兵衛  
水野 慶次郎  
荒川 藤兵衛  
長埜 龜七  
吉川 半七  
小林 喜右衛門  
若林 源藏



終